



日本労働者協同組合（ワーカーズコープ）連合会の第40回定期総会が6月21日（朝日ホール）～22日（ニッショーホール）で開催され、全ての議案が可決され、無事に終了しました。総会初日には355人、初日夜の労協連40周年記念レセプションには285人、翌日の法制特別化合同企画には657人と多くの方にご参加いただき、あらためまして深謝申し上げます。残念ながら本国会での「労働者協同組合法」（仮称）の成立はなりませんでしたが、「与党協同労働に関する法制化ワーキングチーム」榊屋敬悟座長代理及び後藤茂之事務局長、「協同組合振興研究議員連盟」の篠原孝事務局長など多くの法制化に関わる方にご挨拶いただき、現場視察をされたことを含めて協同労働の必要性を訴えていただき、もみじの深まるころには法制化を実現したいという、力強いメッセージをいただきました。

また厚生労働省、日本協同組合連携機構（JCA）、全国農業協同組合中央会、労働者福祉中央協議会、こくみん共済coop、全国労働金庫協会、SDGs市民社会ネットワーク、みんなの電力、ワーカーズ・コレクティブネットワークジャパン、菜の花プロジェクトネットワーク、日本協同組合学会、など多くの関係する方々にもご挨拶いただき、法制化への期待とともに、地域においての具体的な連携促進を呼び掛ける場面となったことを嬉しく思います。

法制化特別合同企画では、トークセッション「協同の関係を広げ深める～協同労働を地域の産業・経済のインフラに」をテーマに、3つの実践とともに東京都世田谷区の保坂展人区長や日本協同組合連携機構（JCA）の青竹豊常務理事よりコメントをいただきながら進行しました。3つの実践としては、広島市で協同労働の団体を住民とともに立ち上げている広島市協同労働プラットフォームを推進する「ひろしま協同労働推進ネットワーク」。長野県信濃町でナチュラルハウスクリーニングの仕事を中心に、協同労働で行うことを目指す「ライフワークレインボー」。そのナチュラルハウスクリーニングを実践し、すでに多様な就労困難な仲間と共に仕事おこしをしてきた「WORKERS NET RINGS事業所」でした。それぞれの実践では、地域住民が協同労働と出会い、いきいきと働きながら、地域や自分たちの困りごとを解決していく姿が報告されると同時に、持続可能な地域づくりに向けた新しい事業が議論されました。

今総会での「法制化時代を主体的・能動的に拓き、全国・全地域に協同労働・ワーカーズコープの躍動をつくり出そう」の方針の実現と労働者協同組合法の早期実現を目指し、連合会・加盟組織一同、力を合わせて努力し、全国で改めて地域から協同労働の実践と発信を行うことを確認した総会となりました。